

日本はどのように不平等条約を改正しようとしたのか？【解答例】

【学習のねらい】

明治政府や人々が不平等条約を改正するためにどのような取組を行ったのかを理解する。

【作業】 明治政府の外交の変化を表にまとめましょう。

できごと	原因・できごとの内容	結果
(1) 岩倉使節団	① <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>不平等条約の改正を目指したが、失敗した。</u> ・ <u>欧米の政治や産業、社会状況の視察</u> 	② <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>視察をして、日本の国力を高める必要性を感じる。</u> ・ <u>日本の近代化を進める。</u>
(2) 欧化政策	③ <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>鹿鳴館で舞踏会が行われ、慣れない洋服を着て、日本人がダンスを踊る。</u> つまり、ヨーロッパの文化の真似をした。 	④ <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>領事裁判権撤廃の代わりに、外国人を裁く裁判に外国人の裁判官を参加させるという条件がつく。</u> これに人々は反対した。
(3) ノルマントン号事件	⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>イギリス船ノルマントン号が和歌山県沖で沈没し、日本人乗客全員が水死する事件</u> 	⑥ <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>イギリス領事裁判所は、イギリス人船長に軽いばつを与えただけだったので、日本では不平等条約改正を求める世論が高まった。</u>
(4) 日英通商航海条約	⑦ <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>日本が大日本帝国憲法を公布したことを受け、交渉に応じるようになり、領事裁判権の撤廃に成功した。</u> 	⑧ <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>関税自主権の一部は、1894年に回復されたが、完全な回復は、1911年に小村寿太郎がアメリカとの条約に調印して実現した。</u>

【学習のまとめ】

明治政府や人々は、不平等条約を改正するためにどのような取組を行ったのかを、具体例を1つあげて説明しましょう。

解答例) 欧化政策

欧米諸国に、日本は進んだ国と認めってもらうために、西洋風の建物を建設して舞踏会を開き、洋服を着て、ダンスをした。

「3年社会（歴史）日本はどのように不平等条約を改正しようとしたのか？」 **解答編**

不平等条約とは→^{にちべいしゅうこうつうしょうじょうやく}日米修好通商条約（1858年）

不平等な内容：(1) ^{ちがいほうけん}治外法権（^{りょうじさいばんけん}領事裁判権）を認める。

(2) ^{かんぜいじしゅけん}関税自主権を認める。



(1) (2) の撤廃が明治政府の使命となる。

【作業】を進めるポイント

- (1) 岩倉使節団…① 教科書P.167「2～4行目」から、岩倉使節団が欧米（ヨーロッパやアメリカ）で行ったこと2つを、抜き出して書きましょう。
- ② 教科書P.167「5～6行目」から、岩倉使節団が必要であると気付いたことや、行った取り組みを、抜き出して書きましょう。

<解説> 欧米の視察に出た「岩倉使節団」は派遣の目的が、「不平等条約の改正」から「欧米の進んだ制度」を見て、学び、日本に持ち帰ることに変わった。「日本の近代化」とは、「富国強兵」（徴兵令の実施）、「殖産興業」（国を豊かにするために交通や通信、富岡製糸場の建設など）、「文明開化」を指す。

- (2) 欧化政策…③ 欧化政策の内容を、教科書P.175⁵「欧米人の目」の解説から読み取り、「どこで、誰が、どんな服装で、何をしたのか」をまとめましょう。
- ④ 欧化政策と同時に行った井上馨や大隈重信による交渉はどのような内容だったのかを教科書P.175「2～4行目」から抜き出して書きましょう。

<解説> 欧化政策により、欧米諸国と同じ文化があると示そうとしたが、条約交渉はうまくいかなかった。

- (3) ルマントン号事件…⑤ ノルマントン号事件の内容を、教科書P.175⁶「ノルマントン号事件」の説明から抜き出して書きましょう。
- ⑥ ノルマントン号事件の結果、イギリスの裁判所の対応や日本人の対応に注目して、教科書P.175⁶「ノルマントン号事件」の説明から抜き出して書きましょう。

<解説> イギリス人船長が犯した罪を、日本の法ではなくイギリスの法で裁く形になったので、イギリス人船長に有利な判断が下された。これを見て、日本では領事裁判権などの不平等条約撤廃の世論（世の中の人々の意見）が高まった。

- (4)日英通商航海条約…⑦ 教科書P.175「5～6行目」から、イギリスが条約改正に応じたできごとや、不平等条約の中で撤廃された内容をまとめましょう。
- ⑧ 教科書P.174①の解説から、関税自主権の完全な回復に注目してまとめましょう。

<解説> ノルマントン号事件後、日本では大日本帝国憲法が発布されるなど、欧米諸国と同じような法や制度が整備された。これを受けて、イギリスなどの国は不平等条約の撤廃交渉に応じるようになった。

[ポイント] 1894年 日英通商航海条約（領事裁判権の撤廃）
1911年 小村寿太郎による、完全自主権の回復

【学習のまとめ】(1)～(4)のできごとを1つ取り上げて、①～⑧にまとめたことを参考にして説明しましょう。

例) ノルマントン号事件

事件に対するイギリスの対応が、条約改正にはほど遠い内容だったので、当時の人々は早期の条約改正を求めた。

<解説> 当時の人々が、欧米諸国と同じようにするためにはどうすれば良いか、考えたことや、日本の近代化（例：大日本帝国憲法の発布）と関連付けて説明すると良い。